

大学等名：玉川大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

【事業概要】 本事業は、アクティブ・ラーニング実施科目の体系化を図り、それぞれの科目でどのようにアクティブ・ラーニングが行われるかを学生に明示すると同時に、アクティブ・ラーニングが適切な指導のもとで行われるように、教員の教育力の養成を目指すものである。加えて、学生には、アクティブ・ラーニングの有効性を高めるために、複数の専門的な支援スタッフを配置し、対応する。教員に対しては、アクティブ・ラーニングの手法を分類したうえで、その到達目標と適切な評価方法を教員間で共有できるように全員参加型のFDプログラムを実施する。アクティブ・ラーニング形式の授業を大幅に増やし、ルーブリックを採用することで、学修到達目標を明確にするとともに、学生の授業外学修時間を十分に確保する。これにより、授業満足度および学修到達度等にかかわる全学的な教学マネジメントの改善を図る。さらに、学修成果の可視化を促進し、実社会に有効な学生のコンピテンシー開発につなげていく。

社会からの要請

玉川大学の教育理念 Tamagawa Vision 2020

「21世紀社会を支える高次汎用能力を備えた人材」

(どのような時代や社会にも通用する高次汎用能力と態度・志向性をもった人材の育成)

実質的な学修時間の増加

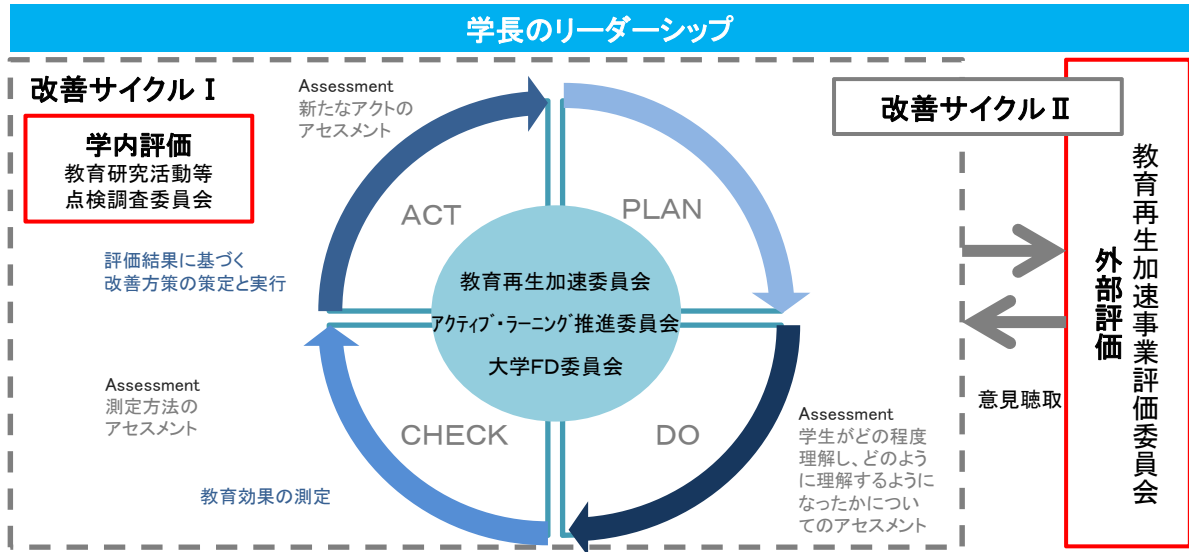
目指すコンピテンシーの養成

全学的な教学マネジメントの改善

<実施計画>

- ◆アクティブ・ラーニング実施科目の体系化
- ◆アクティブ・ラーニングの推進と体系化
 - ・アクティブ・ラーニング科目の体系化
 - ・アクティブ・ラーニング・ハンドブックの作成
 - ・アクティブ・ラーニングの手法研究・開発
 - ・ルーブリック評価の採用
 - ・ラーニング・コモンスの設置
 - ・専門的な支援スタッフの配置
- ◆教員の教育力養成
 - ・全員参加型のFDプログラム
 - ・ルーブリック・ワークショップの開催
 - ・ティーチング・ポートフォリオの活用と教員評価
- ◆学修プロセス・成果の可視化
 - ・学生ポートフォリオの活用
 - ・学生の学修到達度調査の継続
 - ・学生の学修行動調査の継続
- ◆実社会における学修の有効性の研究・開発
 - ・全学共通のキャリア科目の再点検、新規科目開設

<本事業の実施・推進体制>



事業の成果	26年度(実績値)	28年度(実績値)	31年度(目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	50%	88.5%	90.0%
学生の授業外学修時間	4.5時間	5.2時間	25時間
ファカルティ・ディベロッパー (FDer) の配置	2人	3人	9人

これまでに行ってきた学修環境整備はマクロレベル、ミドルレベルであり、本事業が目指すのはミクロレベルの加速推進である。教員の教育レベルを底上げし、教育の質の保証を図るのが狙いである

- ・教員の教育力の向上とアクティブ・ラーニング型授業の増加
- ・学生の授業外学修時間の十分な確保
- ・数値目標や指標が明確なため、効率的なPDCAサイクルの循環が可能